

柳瀬川・空堀川流域連絡会（第6期）(全体会)

日 時:平成24年3月22日(水) 14時00分～16時00分

場 所:北多摩北部建設事務所 2階 第1、第2会議室

配布資料:

- ① 次第
- ② 柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール～行政と市民による連携・協働～
- ③ ワンドの試験施工実施について(案)
- ④ 第6期柳瀬川・空堀川流域連絡会の活動報告(前期)
- ⑤ 第8回 柳瀬川・空堀川流域連絡会(第6期)(合同分科会)議事録
- ⑥ 河川の水量確保を目的とした空堀川流域の地下水環境調査(図表)
- ⑦ 河川の水量確保を目的とした空堀川流域の地下水環境調査
- ⑧ 第13回きよせ カタクリまつり

報 告:

- ① 前期のまとめ
 - ・樹木管理ルールの最終確認について
 - ・ワンドの試験施工実施(案)について
 - ・前期の活動報告について
- ② 前期の活動等について意見交換
- ③ 次回の開催予定について
- ④ その他

特別講演:

空堀川下流域の地下水環境調査について

【議事要旨】

●報告

(事務局) それでは定刻になりましたので第10回流域連絡会、全体会を開催したいと思います。開催の前に、お手元に配布してある資料を確認したいと思います。次第のペーパーが1枚。樹木ルール、カラー版が1枚。ワンドの試験施工について(案)これはカラー版で1枚。それから前期の活動報告という事で、カラーのA4版裏表3枚綴りがございます。それと第8回の議事録が全部で8枚、裏表であります。それから今日特別に講演をしてもらいます資料、カラー版で河川の水量確保を目的とした空堀川流域の地下水環境調査というペーパーが全部で6枚ワンセットになっています。その次に、本日来て頂く〇〇研究員が、都の内部で発表会をやった時の資料と同じ物を配りました。不足があれば事務局の方に言って下さい。それでは、前期最後になります流域連絡会の全体会をこれから開催したいと思います。開催にあたりまして前期最後になりますので座長の方からご挨拶をお願いします。

(座長) 今日はお寒い中、立川までお越し頂きましてありがとうございます。おかげ様をもちまして第6期の前半ですが、今年度の最後というところまでこぎつけました。課題としては、ある程度進んだもの、まだ十分じゃないものもあるかと思いますが、引き続き24年度も第6期という事で皆さんの意見を頂きながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いを致します。特に柳瀬の合流点につきましては、先週の12日と14日に無事、水理模型実験を行いまして、流連の委員の皆さんも9名の方に見て頂きました。ご覧になって頂いた通り、河畔林については残すという前提で色々な実験を行っています。ただ、その中で座長の〇〇先生から、一部で計画通りの流れで来たら流速が速く、危ない所も出てくるかもしれないという話を頂きました。ですがその中で、やれる事をやっていきたいという気持ちは変わりませんので、引き続きご協力をお願い致します。本日もよろしくお願ひ致します。

(事務局) それでは次第に従いまして、事務局の方から3点程報告がございます。まず初めに、樹木管理ルールの最終確認についてという事で、この資料(柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール～行政と市民による連携・協働～)をご覧頂きたいと思っております。この資料は前回、分科会の方で纏めて頂きまして、合同分科会で提案して、若干手直しがありましたので、内容を事務局の方で直してあります。最初から読ませて頂きます。柳瀬川・空堀川流域連絡会では～資料読み上げ～ 植生の維持管理を進めます。これから本文でございまして。柳瀬川・空堀川の草本・木本維持管理ルール。副題としまして～行

政と市民による連携・協働～。全部で6点ございます。まず1、維持管理作業を行う場合は～資料読み上げ～6、旧川や河道及び芝中調節池等を利活用し、雨水貯留の役割と、水と緑の憩える場の創出に努める。平成24年3月22日。これは本日でございます。第6期柳瀬川・空堀川流域連絡会。なお、今後、細目についても引き続き意見交換を重ね策定する予定です。これが前回文言の追加等を頂いて直した維持管理ルールの最終案でございます。

(座長) 今、事務局から説明がありましたが、前回、全体会の中で一回確認をさせて頂いた中身になります。これについてはよろしいでしょうか。細目についてはという事を追加させて頂きましたので、今後、河川環境分科会の中で話し合っていく議題になるかと思っておりますので、よろしくお願いを致します。

(都民委員) これは今日の日付が入ってますから、ここで確認をして、広報するという事でよろしいですか。

(座長) これは当然、流連の成果となると思っておりますが、うちとしては積極的にこれを出すというのは今のところ考えてはいたしません。

(事務局) 議事録関係はホームページに載りますので、そこに第6期の成果として載ります。

(都民委員) 扱いとしては、個人、団体等で、それぞれの範疇で使ってもよろしいですか。

(座長) これは我々の河川管理者としてのスタンスも入って出来上がったものですから、表に出て都合の悪い中身は無いと思っておりますので、構いません。

(事務局) 前期の整備計画も皆さんに結構活用して頂いてるので、そういう目的で使われるなら構わないと思っております。

(都民委員) 解りました。ありがとうございました。

(座長) 引き続き、ワンドの試験施工実施案について事務局からお願い致します。

(事務局) 前回の分科会で、時期的な問題と、どの位のスペースでやるのかなど、具体的にどうなるのかを示して欲しいという事で、今回、前回の意見も取り入れて事務局から提案したいと思います。ワンドの試験施工実施(案)。御成橋左岸のJR構内排水(湧水)を活用し、水生生物などが生息可能な環境を創出するため、ワンド、今回は池と水路になってますが、ワンドの試験施工を実施する。原則として、洪水時の流水を阻害しない、護岸に影響を与えない。実施形態は行政と市民による共同作業で2回から3回を予定しております。実施時期は出来れば本格的な雨季に入る平成24年6月までには形にしたいと思っております。それから実施の概要ですが、まず黒丸の所をご覧頂きたいのですが、JR構内排水の流れという事で、左岸側で橋の上流の方の比較的水の綺麗な方の活用を考えております。JRの湧水が護岸に落ちてまず護岸側の水路を通ります。それから池部、若干広めの池を作り、そこに一時貯留して、その余った水を川側の水路部を通して空堀川に再度流します。断面図をご覧頂きたいのですが、左側が川側の水路部で、水深20cm位を予定しております。それから右側が護岸側の水路で、これは水深40cmです。川側の水路部と護岸側の水路部で20cmの水位差が生じますが、この部分については、池部が常時満杯になれば水は流れます。それから、池部は水深は約70cmで、その内20cmは先ほど言ったとおりに流れることとなりますので、池に溜まる水が水深約50cm位。JRの湧水は約600～650m³/日位ですので、それで足りるのかという事もあります。この池部で一時水を溜めます。湧水が毎日出てくれば、それなりの水量になりますので、水深は確保出来るかと考えています。最後にその他として維持管理について。前回、野川の覚え書きを皆さんにお渡ししましたけれど、維持管理についても行政と市民による連携という事で覚え等を交わして、適切な維持管理に努めていきたいと思っております。事務局からは以上でございます。

(座長) このワンドの試験施工(案)について、ご意見等は何かございますでしょうか。具体的に実施時期というのはどういう形で決めていきますか。

(事務局) 次回、具体的にこの方法がいいのか、粘性土でいいのか、石はどうするのかといった話し合いをしたいと思っておりますが、これは分科会の方でやりたいと思っております。水循環分科会はこのワンドの関する事、河川環境分科会は樹木管理ルールの細目。その他にも何かあれば意見出して頂きますが、とりあえず分科会に分かれてやりたいと思っております。

(座長) 今、事務局からあったように、詳細については次回の分科会で決めましょうという事で、それ以降になるかと思っております。何かご意見等ございますでしょうか。

(都民委員) 前回私の方から、なかよし橋～御成橋～達磨坂橋について、ここで地下に浸透させないような試験工事だけでもやって頂けないかと思って提案をさせて頂いたんですが、それとこれはどういう関係があるんですか。ここにJRさんの構内排水と書いてありますが、これは地下の武蔵野線の構内に出てきた湧き水なので、非常に綺麗なんです。だからここに池を作って生物が住めるかという、逆に私はちょっと難しいような気がしたので、前回提案させて頂いたんですが、ここから水が出てきて、全体をワンド的な形にすればいいんじゃないかと。ここは上流から当然空堀川の水が流れてくるので、水質的には多少良くないんですが、逆に言うとそちらのほうが自然水じゃないかなと感じています。これをお金をか

けてやって頂いても、あまり意味がないのではと思います。

(都民委員) 前回の分科会では事務局の提案について協議したんですが、なかよし橋～御成橋間の整備については、こちらの提案があって大体の合意が出来たので、事務局の案は脇において、我々としての案を提案したんです。事務局の案は前回よりもっと前に出ていた案で、我々が知らないという事はないのですが、我々が前回の分科会で纏めた案というのは、これそのものじゃないかと思っています。この御成橋からなかよし橋の間については、上流でローム層のいいのが出ているので、それを使って整備するならば、ここでどのくらいの厚さにしたらもつのか。それを試験してみたらどうかという提案をして、〇〇さんの案でいいのではという話をしました。それともうひとつ、私の方からお願いがあるんですが、JRの湧水は行政が下水道法十条の但し書きを適応するという事になった訳です。それで JR のこの立坑は恩田立坑と萩山立坑がありますが、水を御成橋付近から出していくという事なんです。この川に流れ出た水については、正確に JR から事情聴取をして、データを貰って、どういう量が出てきて、どういう扱いになるのかという事を JR と北北建と、関心を持って我々とで交渉させて頂きたいと思っています。公共の水面に出てきたら、その水面の水を利用して我々はこういうワンドを作ったりしたいという話をしています。どの程度の水がここに出てくるのか。やっぱり正確に掴む必要があると思います。そういう意味で JR と北北建で話をしてもらって、きちんとしたデータを貰いたい。

(事務局) うちは河川管理者なので、実際どの位水が出てくるのかというのは知っておく必要があると思います。前回来た時も調査したら報告するという話でしたので、JR の方に私の方から確認してみます。河川管理者という立場で、実際どの位増えているのかという話を、その中で何かご要望があれば言って頂ければいいかと思っています。

(都民委員) 是非そのようにして下さい。このワンドについては、この件も含めてもう一度、次回の水循環分科会で話しをさせて下さい。そうじゃないと纏まっていけないと思います。

(事務局) これについては将来的な河床張りの話と床止めの話もあります。ご意見として伺いましたが、いつやると云う事は、今の段階では河川管理者としては言えません。とりあえず、この試験施工を実施して状況を見るという事で事務局は考えております。

(都民委員) その試験施工もどこをどの程度どういう風にやるのか、そういう話のすり合わせが出来てないので、それを含めて次回お願いしたい。

(座長) 判りました。これについては事務局からの案が、第 5 期から既にこのペーパーで出てますが、それもまだ継続審議の議題としていくという事で、前回の討議辺りから絵が出てきて分科会の中でも話を始めたという事なので、次回の分科会で引き続き検討して頂きたいと思います。事務局から話がありましたように、まだ暫定河床で、これから下流から掘っていくので本格的なものは出来ません。特に河道を横断する床固めは相当お金が掛かりますし、水理実験で見て頂いた通り、洪水の時にあれだけ流れがあれば簡単なものはすぐ壊れてしまいますので、中途半端なもの出来ない。そういう事も念頭に置いて頂いて、今話があったような試験施工を、要するにどのくらい浸透するかという事を確認する事は重要かもしれません。

(都民委員) 分科会の意見と事務局とのすり合わせというのはやっておかないとまずいと思います。

(座長) そうですね。ワンドの試験施工については今回ペーパーを配りましたが、前回委員から出された絵等も参考にして頂いて次回分科会で引き続き検討するという事にしたいと思います。それでは引き続きまして、前期の活動報告についてという事で事務局からお願い致します。

(事務局) それでは、お手元のカラー版の 3 枚綴りの資料をご覧頂きたいと思います。前期の活動報告を事務局の方で纏めました。前段は流連の設置目的等、いつスタートしたか、6 期の構成委員は全員で 35 名等が書いてあります。前期の活動内容として、第 1 回は平成 23 年 5 月 13 日。この中では設置要綱と運営要領を事務局の方から提案して承知して頂きました。続いて座長、副座長を選出し、今後の進め方、今後の予定等について意見交換を行ったという事です。第 2 回は現地調査です。流連が立ち上がる時に必ずやっているという事ですし、当然新規の方もいらっしゃるという事で、柳瀬川と空堀川の合流点から野山北公園まで現地調査ということでご案内しました。当日、若干雨は降っていましたが概ねこちらで想定した全行程を見て頂きました。集合は 10 時。西武池袋線の清瀬駅です。それからバスで移動して、間に昼食をとりながら野山北公園の源流まで行ったということです。見学した箇所については、工事現場、それから御成橋の上流付近、河道内調節池と源流まで、概ね 10 時から 16 時というコース取りで 6 時間程度。皆さんで現地を見て頂きました。次のページにいきまして第 3 回ですが、これは合同分科会です。23 年 7 月 8 日に実施しました。ここでは今まで通り二つの分科会でやって行きましょうという事を事務局で提案し承されて、分科会の構成についても若干決めました。それから各分科会のまとめ役さんを選出しました。その後、分科会に分かれて意見交換を行い、今後の活動、メインテーマについて意見交換をして頂き、その後、それぞれのまとめ役さんの方から報告を受けました。

各分科会の今後の活動、メインテーマという事で、河川環境分科会の方は、第5期からの引き継ぎ事項という事で御成橋周辺整備計画関連、草本・木本の維持管理ルール関係、外来植物の駆除、その他諸々が出ております。それからもう1点、旧川の利活用。これも、大きな柱としてメインテーマに挙げられております。それから、水循環分科会は大きなテーマが5つ程挙がりました。御成橋周辺整備計画の具体化、ワンドの生物調査、治水に配慮した川づくり、工事などにおいての意見を伝えるシステム作り、具体的にどんな水を流すか、などが挙がっております。これらをメインテーマという事で分科会の方で決めて頂きました。次に第4回。これは河川環境、水循環の合同分科会です。23年8月23日で、座長が交代になりましたので、座長の変更ということで事務局から提案して承認を頂いています。それから分科会の構成員も決まりましたので、ペーパーでお配りしました。また、今後の開催予定を出して欲しいと言う要望がありましたので事務局の方から提出しております。その他、今年度の発注工事予定、新合流点付近の現場見学の開催についてご要望がありましたので報告致しました。その後各分科会に別れ、今後の活動予定等について意見交換を行い、まとめ役さんの方から、報告、提案、要望がありました。その具体的な内容ですが、河川環境分科会では4点です。御成橋整備計画の植栽についての具体案を作成する、行政の合意を得て樹木管理ルールを実効性のあるものとする、セイバンモロコシ駆除実験を行う、ワンドの調査や旧川の利活用は全体会で行なう等が出ました。それから水循環分科会も4点程見出しがあります。御成橋整備計画について、可能・不可能の検討提案がこの時にありました。それから、JR湧水を活用するため河床張りについて話し合っていく、新合流点の問題を取り上げていく、今後の工事の見通しを示してもらいたい、などが意見、提案として出されております。続きまして第5回は皆さんからご要望がありました新合流点付近の現場見学です。23年の9月6日。当日は今、工事をやっている空堀川の境橋に集合して、実際に分流の場になる上流側の天然護岸と河畔林を見て頂き、簡単な工事の説明を事務局よりしております。その後、現在、架替工事をやっております境橋を見学して頂いて、清瀬橋の下流のワンドも見て頂きました。その後、清瀬市の中里地域市民センターで意見交換を行いました。その中で、河畔林、過去の洪水、水辺周辺の環境、水質など様々な意見と提案が出ております。また、事務局の方から河畔林を残すことが可能かどうか水理実験を行い検証するという報告をしました。当日のスケジュールはここに書いてありますが、大体14時から17時位で、3時間程かけて必要な箇所を見て、意見交換をして頂きました。第6回は平成23年11月9日になります。ここから本格的に樹木管理ルールと御成橋周辺の整備計画を各分科会で話し合っていく予定です。市民団体から提案された第5期の樹木管理ルールに対して事務局案を示し、その後意見交換をしました。この中で諸々のご意見と提案が出ております。主なものとしては、維持管理作業を行う際に立会いという文言を入れて欲しい、地域にあった樹木管理ルールを作りたい、ワンドの施工という言葉を追加して欲しい等です。それから、河道内調節池の利活用、総合治水の話も出ました。この要望を踏まえ、事務局で修正し次回また提案するという事になりました。御成橋周辺整備計画ですが、まず実施時期等について事務局の方から説明して、その後意見交換をおこないました。その中で、事務局の説明に対して東村山市を交えてJRと話し合いを持って欲しいとの意見が出ました。また、ワンドの試験施工については、早めに行きたい、他の工事現場でいいロームが出ているので、これを改良して使えば有効な治水対策にもなるんじゃないか、漏水対策にもなるんじゃないか、土木センターで河床から地下水の高さを出して欲しいなどの提案、要望が出ました。この土研の講演会ですが、地下水の動向に関しまして、本日後半に予定しております。それから、この意見、要望を踏まえ、事務局で出来るものから作業を進めていくという報告がありました。第7回。これは年あけまして本年の1月16日です。初めに樹木管理ルールについて前回からも出ていたが経緯が解らないので説明して欲しいという事で事務局の方から説明をしました。その後、調整案を事務局の方から示しました。内容としては、副題について、4項目目のワンドの施工、芝中調節池、それから総合治水対策の推進等々です。その後の意見交換では前段の説明文に理念的な文章を入れられないか、植生調査エリアの共有化は出来ないか、基本ルールと細目は分けるのか、細目を別途定めるという文言は追加できないか、等のご意見が出て、事務局の方で再度提案させて頂く事になりました。この中で、基本ルールを全体会で決め、細目については河川環境分科会でたたき台を作り、整理したほうがいいのかという座長提案がありまして、この意見交換の内容を元に、再度事務局に幹となる部分の基本部分について再提案をするという事になりました。続きまして第8回、河川環境、水循環合同分科会。これは2月22日実施です。初めに、樹木管理ルールの最終案、模型実験、次回の開催予定について説明を行いました。その後、各分科会ごとに分かれて意見交換を行い、合同分科会でまとめ役さんからご報告を頂きました。河川環境分科会では草本・木本維持管理ルールの策定という事で、樹木管理ルールについて意見交換を行い、河川環境分科会としての最終合意案を纏めました。その後合同分科会で最終合意案の報告があり、細目については今後分科会で詰めていくことが確認されました。水環境分科会

につきましては、御成橋整備計画の具体化という事で、整備計画の中の JR 湧水の活用と、築山、それから実施時期などについて意見交換を行いました。この中で、床固めを先行して実施し湧水を貯めたらどうかという提案がありました。その後、合同分科会で事務局からワンドの実施時期について、皆さんの了解が得られれば出水期前の 6 月位までには試験施工したいという事を提案しております。それから、第 9 回として、水理実験の見学会を行いました。当日は雨が心配されましたが、この下の写真の通り実験当日はよく晴れておりました。模型と言っても 1/15 ですので実際かなり大きなもので、当日は洪水時の川の状況、それから平常時の川の状況を再現して、実際に皆さんに見て頂きました。その後、プレハブの事務所に戻って意見交換を行い、実験の見学会を終えています。この後に今日の報告を付け加えまして、前期の活動報告ということで纏めたいと思っております。以上でございます。

(座長) どうもありがとうございました。最初に本日のタイムスケジュールをお伝えするのを忘れましたが、今話があったように 3 時 30 分位から空堀川の地下水についてという事で、土木技術センターのほうから話をして頂く事になっております。3 時 30 分ですので 3 時 20 分位まで少し時間があります。それまで、今の報告等踏まえてでも結構ですし、今後のことについてでも結構ですので、意見交換を持ちたいというふうに思っております。最初に、次回の開催予定をお願いします。

(事務局) 次回の開催予定は、5 月中旬から末を予定しています。先程言いましたが、分科会でやりますので事前にまとめ役さんにご相談してどう進めるかを決めたいと思っております。

(座長) 次回については 5 月の中旬から下旬ということで、年度初めは色々和我々の方もメンバーが変わったり、新しい事業の立ち上げですとか色々ありますので、5 月に入ってからという事にさせて頂きたいと思っております。詳細についてはまとめ役さんと相談を致します。それでは、前期の活動等についての意見交換という事で、この報告内容についてでも結構ですし、水理模型実験行かれた方はそういった感想でも結構ですので、何かあればごつくばらんに意見交換をしていきたいと思っております。何かご意見ございますか。

(都民委員) 最初に、あと僅かしか残ってませんが今年度予定されていた工事の進捗状況を報告頂ければ。それから、来年度はまだはっきりしないでしょうけど、来年度の工事が予定されているのか、それも含めて何かありませんか。

(座長) 今年度の進捗についてはから後程説明します。来年度については、申し訳ないんですがまだ議会の予算の審議中ということもあり、表に出せないという状況です。次回はご説明出来ると思っておりますのでよろしくをお願いします。では、今年度の進捗状況についてをお願いします。

(事務局) まず空堀川ですが、東芝中橋の下流左岸の所、これは本年度中、3 月いっぱいには終わる予定です。それから 58-4、高木橋の所の工事については、今年度中は難しくなしまして、工期を延長しまして 6 月下旬位まで工事を行う予定です。

(事務局) 柳瀬川については工事 3 本位、皆さんにご説明していたと思っております。境橋関係ですが、架け替え工事と、取り付け道路関係、それから桁製作。その 3 つの工事が出ておりましたが、それは今年度末で完了致します。空堀川についても、同じように高木橋の架け替え工事ということで、護岸と橋台、橋の整備、それから桁製作、大きく 2 本出ております。桁製作の方は今年度で終わりです。それから、本体工事につきましては、地震と、雨が多かったという事で若干現場の工期が延びております。連休明け 5 月いっぱい位はかかるんじゃないかと。手直しを入れれば 6 月位という事で若干当初の予定よりは遅れていますが、6 月の頭位には何とか終わります。今年度については以上ですが、来年度については公表の関係がありますので、ホームページの方で東京都が公表したら、以前やったような図面等を使って皆様に説明していく予定でおります。

(都民委員) 東芝中橋から流れていく森永の排水がありますが、現在直線化して河床が相当高いんです。これはどういう風に付け替えるかによって、水源であるこの水がどうにかなってしまう。そういう危険性があるんですが、それについて前にもお伺いしたところ、まだ考えてないというような話だったんですが。

(事務局) 多分今の水を新しく作った川に流すと浸透しないんじゃないかというご心配だと思います。高木橋から下流も実際同じような施工をしています。地層は違うかもしれませんが、あそこで浸透して水が枯れたという場所は無いです。ある程度水量があれば、それなりに川の状態になって流れていくと、そういうふうに考えています。

(都民委員) 特別な事をしなくても、ある程度河床を固めることによって浸透防止になるのではと思っております。そうすると、今言われたように下流の方まで河床が、前河床より高いですから、そこどころもどういう風になるのかなと。うまくやって欲しいと思っております。

(事務局) 河床を固める材料というのはあまり例がないんです。例としては、残堀川などでやってる例があるんですが、皆さん見られたらコンクリートと同じじゃないかというような受け止め方すると思っております。今現在あるのはそれ位です。ただ、実際今残堀川でやってるのは、河床の下にそれをやって、上に土を置き

てるので実際目には見えません。水の勢いというのは時にはかなりあるので、それを攪拌して全部持ち上げてしまうという例もあり、維持管理にお金がかかります。何か他にいい方法はないかなというのが今の我々の考えです。

(都民委員) だけどそれでは上水橋辺りまで流れてきている流れが途中で止まってしまう。そうすると何の為の河川工事なのかという話になってくる。今までどうして水量確保について対策を立てられなかったのかというふうに思ってしまうんです。重要な水源ですから、その辺のことを是非お願いしたい。

(都民委員) 私の言っている御成橋周辺で試験工事を早めにやって頂けないかってそこなんです。今、空堀川へは森永さんの排水を浄化して大体4000m³/日、200m³/h位出されてるらしいんです。それが今空堀川では一番重要な水源になっているんです。東大和は河床部分が大体ローム層ですけど、やはりこのままでは地下へ浸透してしまうと思うんです。実際にやってみて、それで浸透したらどうされるんですかという事です。そういう意味で、御成橋周辺で少し狭い範囲でも試験工事をやってみて、効果があるのか無いのか確認して欲しいんです。前回終わった後、石灰で改良するとロームっていうのは強度3倍位に上がって、効果がありますという事で資料をお渡ししたりしているんです。やはりそういう前向な姿勢っていうのが必要なんじゃないですか。

(事務局) 河床張りの材料ですが、本当にこれだっというのが無いというのが現状なんです。今おっしゃったように石灰灰で河床をガチガチにするのであれば、それもいいであろうけれど、そうした場合は、上流の汚い水は汚いまま流れていくという事も考えられます。残堀川でも同じ様な工事をやっていますが、一度大雨が降ると、大きな玉石がゴロゴロ転がってきます。多少の厚さではすぐに飛んでしまいますので維持管理も必要になって来ます。

(都民委員) だからその辺りも含めて試験施工が必要で、野火止用水なんかは何百年も前に粘土持ってきて固めるようなことをやっているんですよ。

(事務局) ああやって、きちんと入り口を抑えてるような玉石ですとか、大雨、洪水の時でも、玉石などがガラガラ来ない様な所では可能だと思います。ですけど、石灰灰を使ったりとか、多少粘土に石灰灰入れて硬くしてやったりしたとしても、玉石には耐えられないんです。それで、維持管理費が非常にかかってしまいます。本当に上流の森永の排水を下流に流そうと思えば、極端な言い方だけどもコンクリートの三面張りをやると完全に流れます。ですが、そうやってガチガチにした場合は、水が染みこんでまた下流の方に吹き上がってくる、伏流水と言いますが、汚い水が一度地面の中に潜って綺麗になってまた下流の方で吹き上がって来るという事も期待できません。汚い水がそのまま下流に流れる事になります。そういった事もあるので、実際に河床張りとしてはどんな材料が適しているのかといった事から始めないといけないんです。

(都民委員) 例えば大学の先生なり専門家に入って頂いてやって欲しいと思っています。50年後、100年後を考えて頂かないと困ると思うんです。小規模でもいいですから試験的に、例えば厚さを変えてやるとかそういう事をやってみて実際にどうなるのかっていう事を、確認する必要があるんじゃないかと思っているんです。

(事務局) ただ、この方法、この案にあるような断面というのは、実際に残堀川でやっているんです。それでこの程度の厚さでは大雨の時に簡単に壊れてしまうんです。

(都民委員) そういうデータを報告して下さい。空堀川と残堀川の違いは我々はわからないわけですから。

(事務局) 空堀川を見るとわかるんですが、大きな玉石なども転がってます。ああいった玉石は大雨の時に洪水で流れて河床をヤスリみたいに削っていくんです。これは残堀川も空堀川も同じだと思います。

(都民委員) その辺の事をもう少し我々にも情報を頂きたいです。だからこうだと言う説明が必要だと思うんです。

(都民委員) 地元の東大和の人間として一言お願いをしたいと思っています。流域連絡会より前に、2way方式というご提案を申し上げております。これは旧川の蛇行している部分も残し、直線的な新川も当然うまく利用し、その両方を活かすという方式です。ただ、水量が非常に乏しく、最大の水源が工場の排水なわけですから。これをどう有効利用して、浸み込まないように下流部まで持っていくかという非常に難しい悩ましい問題があります。その時に、流域連絡会で大いに揉むのは結構ですけど、地元の市民の意見も入れて頂きながら、議論をお願いしたいと思います。私どもは500世帯にアンケートを取りましたが、今の蛇行してる旧川を残してもらいたいと80%の人が言っています。それは何故かという、生き物がいるからです。水鳥が来る、常にうさぎもいますし、それからカワセミも飛んでくるし、魚もいます。生き物がいるからそこに人が来て、憩うわけですよ。それで、コミュニティが復活してくるわけです。名前もわからない同士が、橋から生き物見ながら可愛いねなんて会話を交わしながらコミュニティが復活してくる。こういう現状が今ありますので、この旧川の部分を残しつつ、そして水量をどううまく活かしていくか。こういう地元の意見があるという事を踏まえて議論をお願いしたいと思います。

(座長) そうですね。今、話がありましたように、この流連だけでは決められない部分があるという事です。や

はり地元に住んでの方がいらっしやいますし。残すことに賛成する方が多いというお話でしたけれども、河川管理者の立場から言うと、せっかく新しい安全な川を作ったんだから、こっちの川をいかに良い川にするかっていう事も、大切じゃないかなという気はします。ふたつの川を残すという事は、川がふたつになるという事です。危険箇所が倍のまま残すという事になる訳です。そういう事も考えなければいけないので早急にどうするという事ではないと思います

(事務局) 今、旧川の取り扱いについては市の方と打ち合わせを行なっている最中です。それで、地元に戻して、意見を聞いて、決めていくような形になると思います。我々だけで決める事ありませんし、流連で決める事も出来ないということをご理解を頂きたいと思います。

(都民委員) 勿論、市と話すというのは当然だと思いますが、そこには市民の意見やこの流域連絡会の意見も取り入れて頂かなければいけないと思います。合意とか協働という言葉も最近使われていますし。そうでないと管理者が作った川ですというだけでは維持管理はできないと思うんです。やはりそこには、川に接して住んでる市民の川を愛する気持ちがなければならぬと思います。管理者だけで川の維持は出来ない。川の恩恵を受けるのも市民であり、何らかの形で川に還元をする市民が増えて来なければいけないわけです。一部の団体とか、関心のある市民、都民だけの川ではなく、その流域の多くの市民・住民が関わる、そういう川でなければいけない。だから川の姿だけを考えるのではなく、そこに市民、都民が関わる形を想定しながら川づくりの議論をしなければならぬと思うんです。

(事務局) 先日、水理実験を皆様に見て頂きましたが、自然豊かな河畔林がある様な所については、地元の住民、地元の行政、地元の環境団体の皆さんと一緒に、どういうふうに整備していこうかといった意見を十分に取り入れて、うちの方では大規模な水理実験までやって反映させていますので、一方的にやるような事は東京都としてはありません。

(都民委員) それに加えて言うならば、水理実験をやったところに懇談会として第三者の専門家を入れてやっていますが、形としては、やはり専門家を加えた懇談会というか、なんらかのそういうものを作って進めるのが一番いいのかなと思います。要するに、合意形成の場をどこかで作る必要があると思うんです。そうでないとお互いに言いたいことを言いつばなしですれ違いになる可能性があります。そこは是非ご検討頂きたいと思います。

(都民委員) 今、専門家の方をというご意見がありました。まさに今回の水理実験もそうですが、やはり治水ということを考えていく時に、むやみに理想だけを話し合っただけではいけないと思います。常に水量や流速といったものを想定しながら、水の安全ということを考えなければいけない。ですが、安全だけですとどうしても味気ない川になってしまいます。この会は、安全でしかも人達に親しまれる川を作っていこうという事で発足しております。その両立は難しいかもしれませんが、アドバイザー的にご意見を伺えるようなシステムが出来ればいいと思います。今、御成橋の所、川を新しくすると吸い込んでしまっただ下流に水が来ない。これは今まで経験してきた事ですので、大変な事かもしれませんが空堀川に水量をとという夢は、やはりその辺にあるのかなと思います。それから、先日の模型実験、大変有難うございました。大変な模型を作って下さったという感謝の思いで拝見しました。河畔林を保護するような形で護岸のあり方をこれから工夫して下さるという事で感謝しております。是非いい状態で、河畔林、せっかくの設計を緩断面にしてご苦労下さった、是非それが活かされるような構造にして頂ければ有難いと思います。もう一つ、清瀬の空地に先日3月10日、本当に冷たい雨の中、植栽を流連の成果の1つとして、地元市民団体と共に植えて頂きました。本当にありがとうございます。今後は流連として、またうまく育てていくようにどうぞよろしくお願い申し上げます。

(座長) 水量の話が出てますが、当然我々も水量を確保する事が川を維持する大事な要素だと思っています。それについては、今日の講演の中で、空堀の下流域の水がどうなっているかという話がある程度お分かりになると思います。地下水にも尾根筋があって、ある程度集まってくるというような話があります。それと同じように、上流部についても色々地質とか地層によって全然変わってきます。

(都民委員) 今まで柳瀬川・空堀川の草とか木の維持管理という事で、この会が進められてきました。私は柳瀬川の流域住民の一人なんですが、新合流点、この前見学した河畔林の上の部分から、よもぎ橋と言って西武池袋線の壱番館の近くまでが大体柳瀬川ではかなり魚がいる場所なんです。鯉だとか、或いは春は色んな小さな鮒だとか色んな魚が来て、それを様々な鳥が食べて、巣を作って、その鳥が成長する。鳥と魚とそういう生物の循環がなされています。暮れ以降、今年になってから、柳瀬川の河床の工事が終わってから河床が非常に綺麗になったんです。実に見事に綺麗になって、凸凹が無くなっています。綺麗な川になっていいんですが、一方で橋を渡る人達が寂しがっています。それはなぜかと言うと、魚が来なくなったんです。なぜ魚が来なくなったかという、柳瀬川新合流点辺りから、明治薬科大、野塩の都営団地、それから西武池袋線までの河床が真平らになった為に大きい魚が来れないんです。深みがないから鯉なんか腹があたって来れないんです。平田橋の辺りは鯉が30匹、40匹も来

て、そして目を楽しませてくれていたんです。そして小さな魚たちが来ると、それを追いかけて色々な水鳥がやってくるといった生態系の循環があったんです。そういう循環が無くなってしまいました。だから、工事事務所の方々が施工業者をどういう風に指導してるのかというのを聞きたいです。例えば、工事する前は、河床には 50cm とか 70cm 位深みがあって、そこを水が深く流れていたわけです。そこを大きい魚や小魚が群れをなしてやってきたんです。草や木の維持管理だけではなく、河床の維持管理にももっと注意して欲しいんです。勿論、土木管理事務所で行っているとは思いますが、どういふふうにご指導しているのか。施工した後、魚が今まで通り来ているのか、来ていないのか、それをちゃんと見てるのかどうか。工事をした後、魚が上流まで来るような、今までの河床を、きちっと守ってやらせているのか、そこまで指示しないで一方的に任せてるのか、その辺りを流域の住民として気にしているんです。それから今、境橋の辺りの工事をしていますが、ぐるっと半周している柳瀬川の旧河川になる部分ですが、あそこも何十匹といった鯉がだんだん減ってきています。草木の維持管理、ルールを決めるのと同時に、魚が大中小にかかわらず、きちんと上流まで登っていけるような水路と水質の維持管理をお願いしたいと思います。

(事務局) 今、話された部分は埼玉県が管理していて、我々の工事とは別に、埼玉がやったはずなんですけれど、今まで護岸際が深く、鯉が沢山いた所の深みが無くなったっという話ですね。柳瀬のあそこから上流は結構カーブしています。そうするとどうしてもカーブの外側は、水がガンガン来ますので、そのカーブの所の護岸の下が深く掘れてしまうんです。生物にとっては深みが出るから良い箇所なんですけど、護岸はそれに対応して造っていないのでそのままにしておくとも崩れてきてしまいます。ですので、埼玉の方としても護岸を守るために致し方なく、埋め戻して、ブロックを上を置いたりしたんです。そうすると、見方によっては魚の良い住処だった深みが無くなるという事になります。ですが、護岸が崩れてしまいますと、その際に立っている家なども崩れてしまいますので、そういったものを守るためには致し方ない工事だったんです。今おっしゃった内の空堀川と柳瀬川の合流点、今水理実験をやっている所は、外カーブの所は深くなっています。そういった所のうち、今後工事をするところに関しては、その深みは再現するような形で設計は考えていきます。深みを持たせる為に、通常だったらこの位の護岸でいい所を深い護岸を造って、そして深みは元通り再現する。それが川の自然な形であると思われるので、そういった所についてはそれを再現するような形です。今後、工事していく所については、そういった自然を再現するような河床にしていきます。ただ、今おっしゃった上流についてはそういうふうにご護岸を作っていないので、深みをそのままにしておくとも護岸が崩れてその際の家も崩れてしまいます。ですので、それは護岸を守るために埋め戻す、仕方がない工事だったんです。そうすると、魚にとっては住処がなくなるので残念なことですけど、皆様の財産を守るために仕方がない工事だったと思います。

(座長) 基本的には今の川づくりは、自然に掘れる所は、掘れることを前提にして護岸をちゃんと深く作っておきましょうという考え方なんです。今、上流の方で平らにしても、また台風が来るとそこが掘れます。同じことになるんです。繰り返しなんですけど、本格的な護岸整備が終わるまではそれで繋いでかなければいけないんです。護岸を守ってかなきゃいけないので、埼玉県の方もやむを得ずそういうやり方したんです。それと同じく、柳瀬川の河畔林の上流の都営住宅の前は、少しえぐられてしまいました。ですが、埋めるわけにはいかないの大きなネットの中に石を入れて、それを護岸際に置いています。そうするとかなり急な勾配でも石が積めるので、維持管理としてそういう形でやっています。それから、堺橋の話が出ましたが、境橋のところは一旦は平らにしますがこれから雨が降ったりすると自然に蛇行が出来てきます。それを活かすためにわざわざ河床の幅を広く取っていますし、それが今の川づくりの考え方です。ですから、これからだんだん自然な流れが出てくると思いますので、それはそれで維持する形になると思います。直線で管理しようというつもりはありませんので、護岸に影響がない範囲であれば蛇行を許すというのが今の川の作り方なんです。

(都民委員) 30 年位あそこに住んでいるんですが、見学した橋の所の埼玉県側の川岸の水衝部というか右側の所ですが、石をネットに入れて、今まで見たこともないようなみともない川岸になってしまっています。今までは綺麗な川岸で、その下に魚たちが来ていた所、或いは亀が来ていた、色んな小鳥や鴨が日向ぼっこしていた場所が、みともないネットに石を入れて積んで汚い柳瀬川になってしまいました。今までの綺麗だったものが絶たれるような気持ちで、何とかならないかという思いで、この前もお話しました。それは自然に時間が経てば掘られていって、魚が来るから大丈夫だって言うんですが、周辺に住んでる人間としては、何で魚が来ないんだろうって皆言うんですよね。お年寄りから幼稚園のこども達も。のっぺらぼうの河床ではなく、初めからきちっと大型の魚が泳いで上流まで行けるような河床の作り方というのはやっぱり難しいんでしょうか。

(座長) まあ、難しいというか、それでなんとかやっついていこうというのが今の流れです。10 年以上前までは、川

というのは決められた断面の所を決められた水が流れれば良いという考え方だったんです。ですけど、今はそういう生き物にも配慮して、深くなる所を共有しましょう、深くなってもいいようなしっかりしたものを造りましょう、という流れに変わってきていますので。

(都民委員) 基本的な話としてね、この1年間2年間かけて柳瀬川・空堀川の草や樹木の維持管理に集中していたものを、もう少し目を広げて魚が上流まで行けるような川の流れを作るとか、そういう生き物が上流まで来るような、柳瀬川・空堀川づくりも、この会のちょっと視点を広げた来年再来年の課題になるのではないかと思います。

(座長) はい、ありがとうございます。我々も色々ご意見頂いたりして、落差工の所、魚が登れるように空洞化して変えていこうというつもりでおりますので、それは又その都度ご意見を頂きたいと思います。それでは時間になりましたので、本年度最後の流域連絡会をこれで閉会とします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

柳瀬川・空堀川流域連絡会（第6期）（全体会）

平成24年3月22日（水）14時00分～16時00分

【開催状況】

